

かわさき区の宝物シート

宝物No.	できのいつくしまじんじゃ
15-2	出来野厳島神社

エリア	大師地区	シーズン	通年
	小島新田	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
----	--

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物
------	--



昭和13年の出来野海岸の防潮堤と松林

写真提供：倉形泰造氏

所在地	川崎区日ノ出2-6-3
問い合わせ	若宮八幡宮
TEL	044-222-3206
FAX	044-233-3060
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「日出町」下車徒歩4分



基礎情報

■御祭神は市杵嶋比売神（イツクシマヒメノカミ）。かつては出来野弁財天と呼ばれた。寛永2年（1625）以降、池上幸広らによって進められた稲荷新田の開発後、住居や田畑、用水路が整った17世紀後半頃に、新開地の風水害からの御加護を祈念し勧請されたと考えられている。海苔養殖の守護神として崇められた。

由来・エピソード

■神社の北側からは東京湾に向かって出来野川（堀）と呼ばれた水路が延び、海苔とりのペカ舟が係留される「出来野河岸」には海苔の干し場や名産の長十郎梨やイチジクが積まれていた。干潮時には2kmの沖合まで干潟がひろがり、海沿いの防潮堤には松並木が連なり、脇を大師線が走っていた。神社境内の銀杏の大木は大師の海を航行する漁船やペカ舟、回漕船の目印であったという。今は数本が残るのみだが、昔は森のように大木が並んでいた。奉納されている力石や塩で溶けた二基の庚申塔に漁業で栄えた往時がしのばれる。

■昭和7年（1932）からの6年間、現在の塩浜操車場には「大師河原競馬場」が置かれていた。総面積28,760坪、観覧席数9,850。開催日には、大師線から海岸軌道（現・神奈川臨海鉄道）に乗り換え、競馬場前の臨時駅から繰り出す大勢の競馬ファンでにぎわった。周辺には駐車・駐輪場がなかったため、車やバイク、自転車の客の中には神社境内に停める者もいたという。

補足・その他

■新田開発のために大師河原に移住してきた池上家二十一代幸広が、弟・七左衛門、小島六郎左衛門と協力して開墾したのが稲荷新田（現在の大師河原・殿町～日ノ出）で、七左衛門家（七稲荷組）、六郎左衛門家（六稲荷組）によって所領が分けられた。七稲荷新田に属した現在の日ノ出・出来野と昭和の一部が、後の字出来野耕地となったが、日ノ出（1～2丁目）が出来野の本村であった。耕地整理によって昭和11年（1936）に東の海上に昇る太陽にちなみ現町名に改称された。

関連シート

- (5-2) 長十郎梨のふるさと
- (10-2) 池言坊
- (10-3) 若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (10-6) 田町厳島神社